

2014年3月期決算説明会



フジテック株式会社 (6406)

2014年5月27日 (火)

1 2014年3月期 決算報告

2 2015年3月期 業績見通し

3 中期経営計画 進捗状況

1

2014年3月期 決算報告

1-1. 連結決算の概要

売上高、営業利益、経常利益が2期連続で過去最高を更新

(単位:百万円)

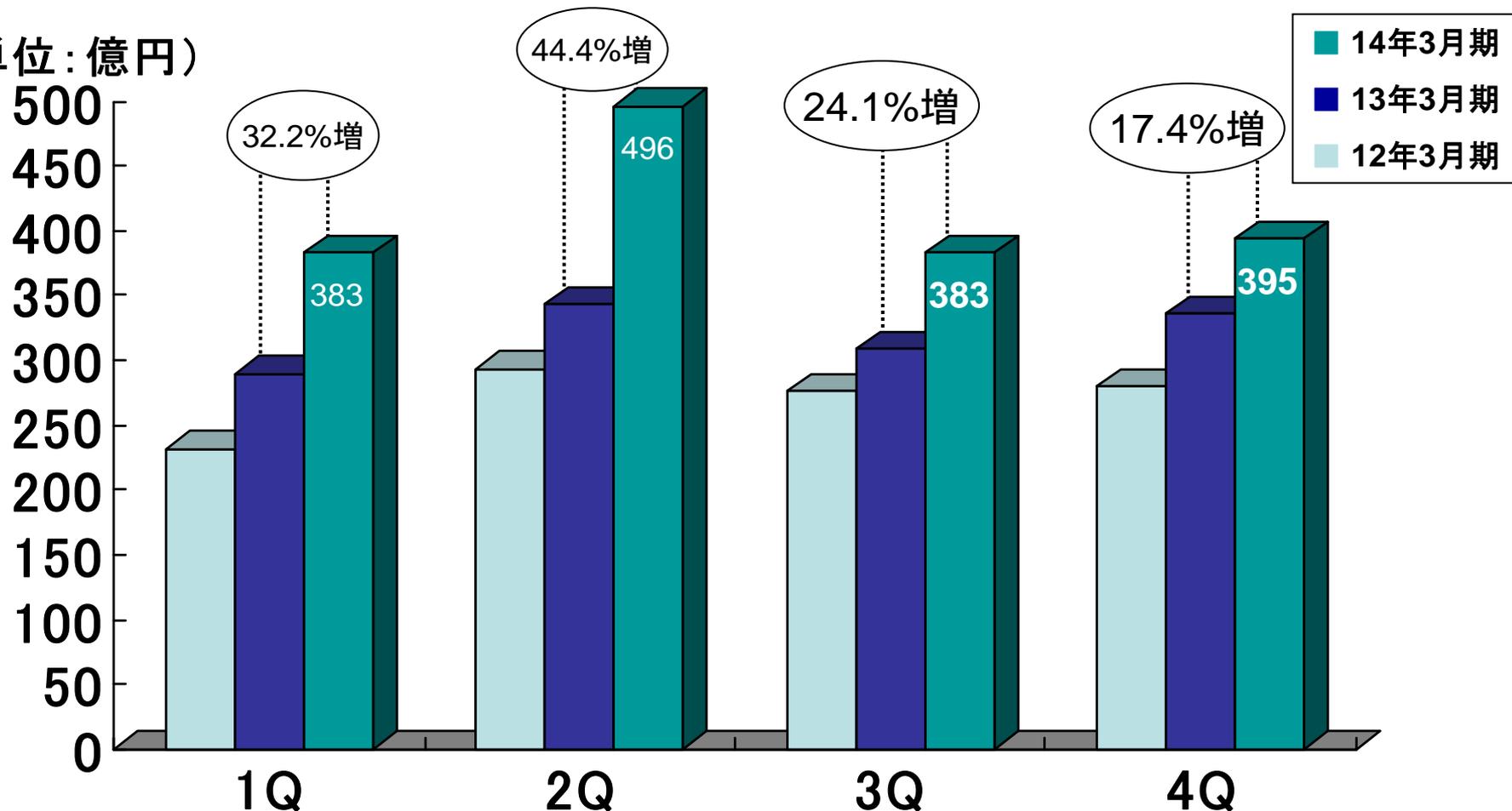
	2014/3 (累計)	構成比 (利益率)	2013/3 (累計)	構成比 (利益率)	増減%	期初計画
受注高	165,789	100.0%	127,910	100.0%	+29.6%	-
国内	61,056	36.8%	53,227	41.6%	+14.7%	-
海外	104,733	63.2%	74,683	58.4%	+40.2%	-
売上高	147,054	100.0%	117,468	100.0%	+25.2%	137,000
国内	58,338	39.7%	49,805	42.4%	+17.1%	-
海外	88,715	60.3%	67,662	57.6%	+31.1%	-
営業利益	12,871	8.8%	9,172	7.8%	+40.3%	9,600
経常利益	14,187	9.7%	10,066	8.6%	+40.9%	10,200
当期純利益	7,664	5.2%	5,507	4.7%	+39.1%	5,800
EPS	82.32円	-	58.87円	-	+23.45円	61.99円

平均為替レート：14/3期 1米ドル96円、13/3期 1米ドル79円

1-2. 四半期別受注高の推移

各四半期とも前年を上回る

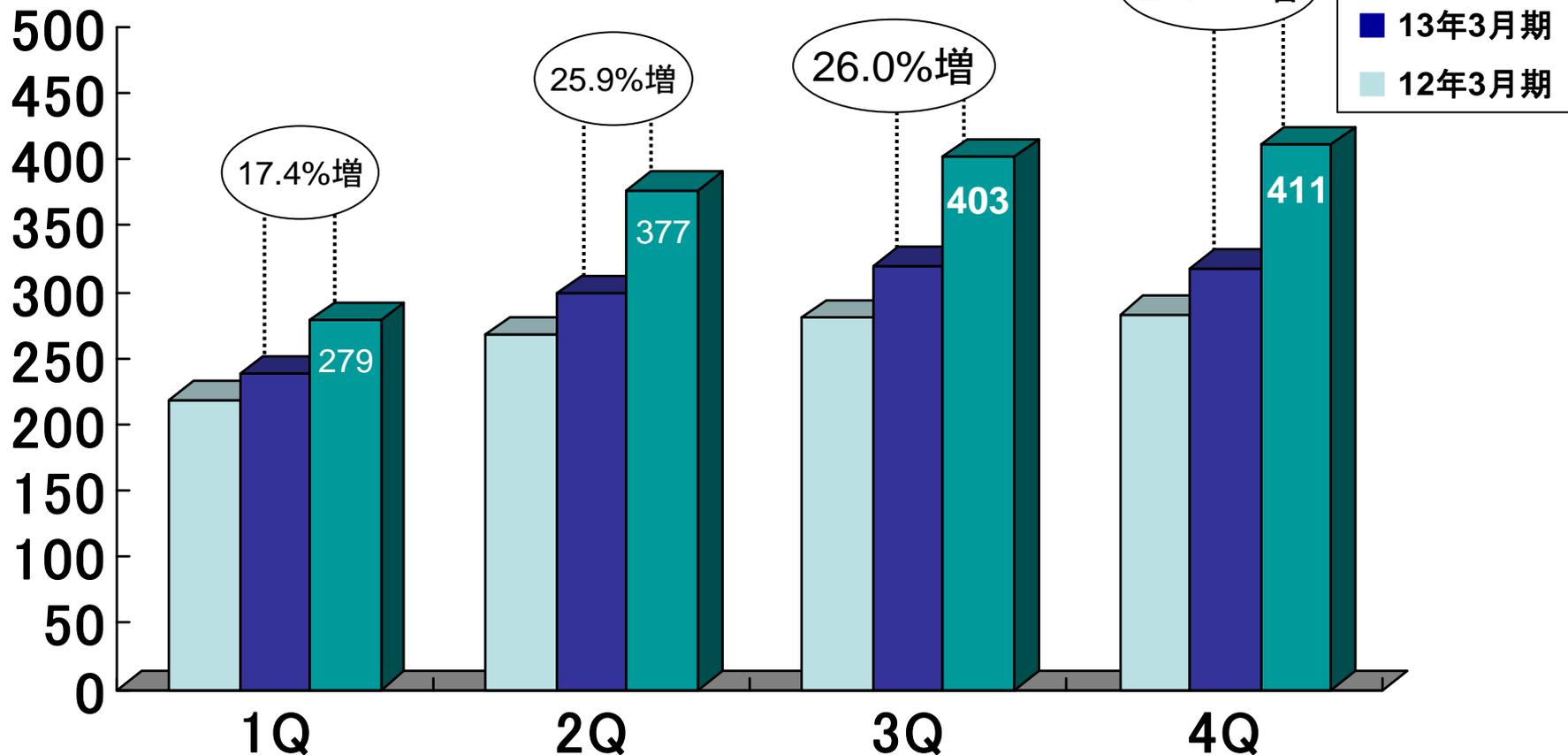
(単位: 億円)



1-3. 四半期別売上高の推移

日本・東アジアが伸び、各四半期とも前年を上回る

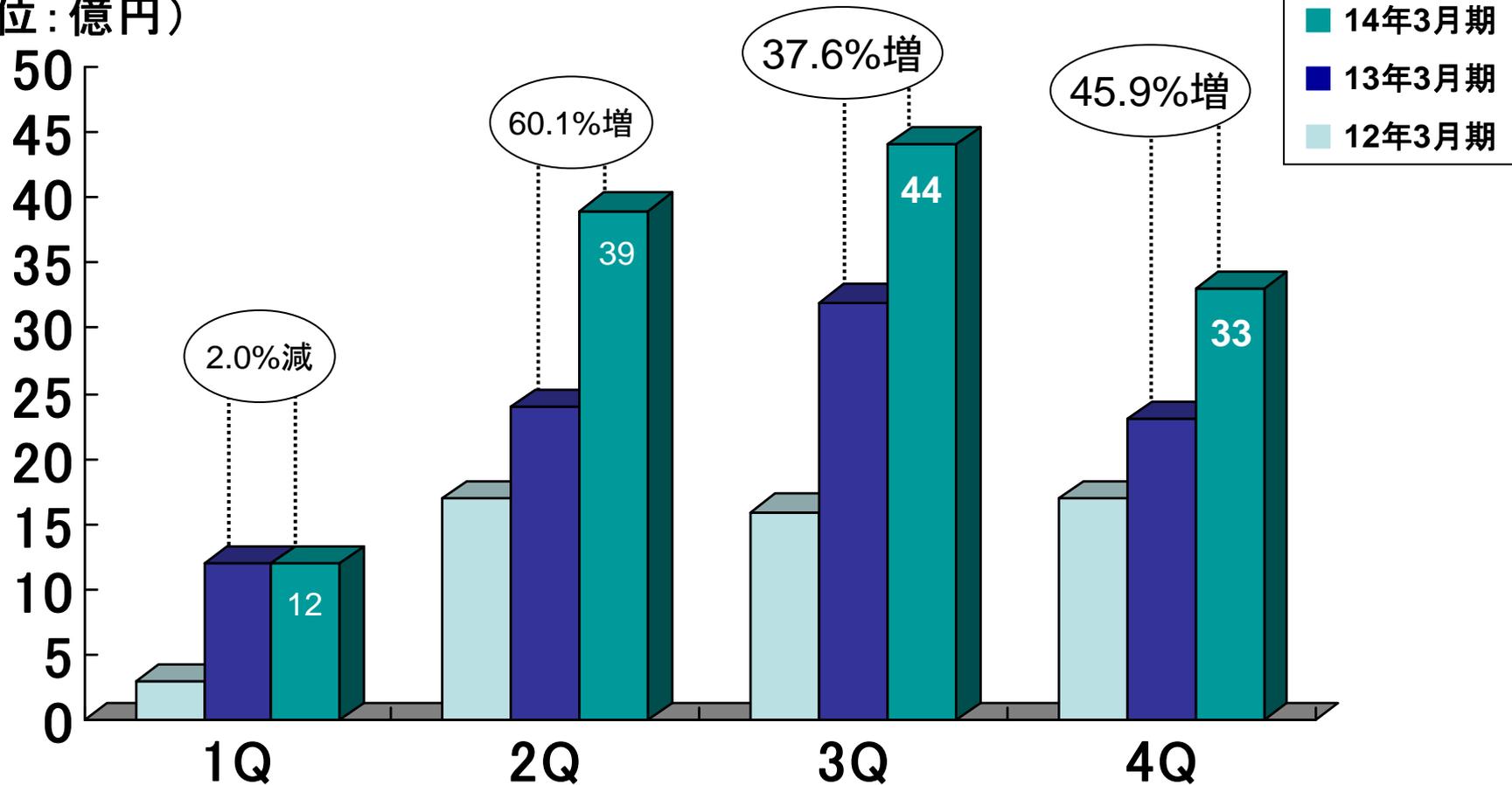
(単位: 億円)



1-4. 四半期別営業利益の推移

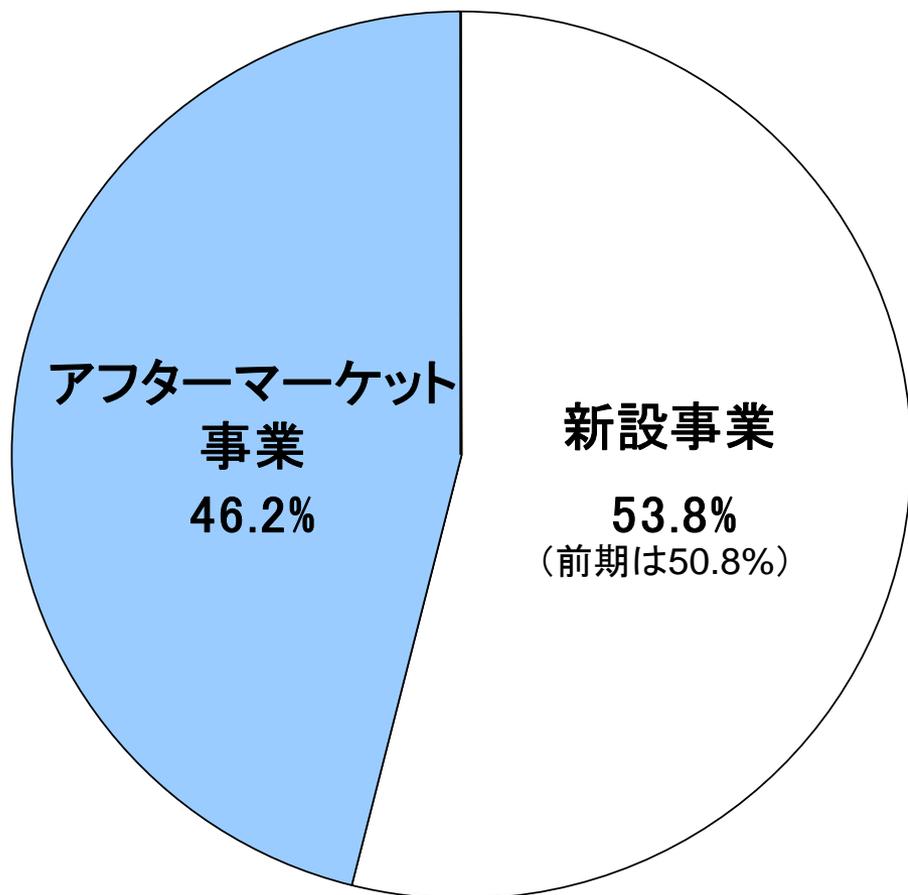
日本・東アジアが寄与、第2四半期以降大幅な増益

(単位: 億円)

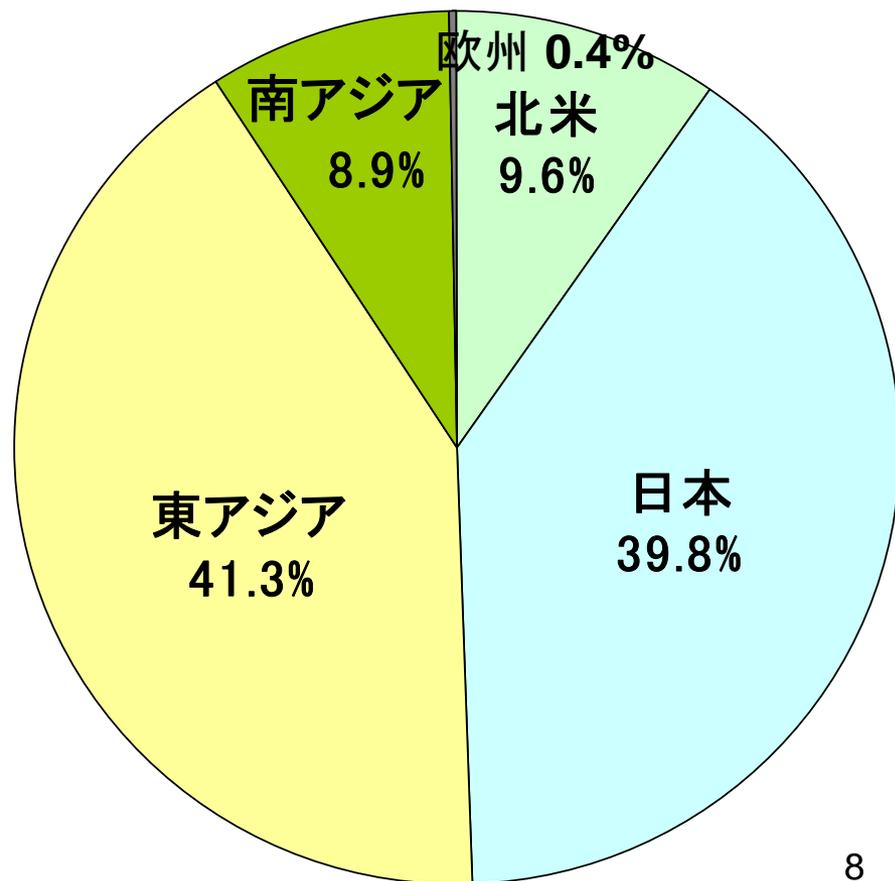


事業別では、新設事業が3ポイント増加。
セグメント別では、東アジアが初めて日本を上回る

事業別売上高



セグメント別売上高



1-6. セグメント別売上高・営業利益

日本、東アジアが牽引

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2014/3 (累計)	2013/3 (累計)	増減%	2014/3 (累計)	2013/3 (累計)	増減額
日 本	62,407	52,865	+18.0%	4,605	3,447	+1,158
東 ア ジ ア	66,363	48,692	+36.3%	6,670	4,178	+2,491
北 米	14,165	11,431	+23.9%	△26	118	△145
南 ア ジ ア	13,024	10,590	+23.0%	1,779	1,486	+292
欧 州	673	389	+72.8%	5	△12	+17
小 計	156,634	123,969	+26.3%	13,033	9,218	+3,815
調 整 額	△9,580	△6,501	-	△161	△45	△116
合 計	147,054	117,468	+25.2%	12,871	9,172	+3,699

増収増益。売上高は10年振りに過去最高を更新

新設事業

- ・ アベノミクス、駆け込み需要で活況
- ・ エレベータ、エスカレータの受注台数増加
- ・ 受注の増加により生産性が向上

アフター マーケット 事業

- ・ モダニゼーション需要は堅調
- ・ 「安全向上パッケージ」「制御盤交換パッケージ」販売が好調を継続。駆け込み 需要も追い風
- ・ 損益面は商品ラインアップ拡充もあり利益が増加

室町古河三井ビルディング(東京)



中国が牽引。増収増益となり業績が拡大

中国

- ・ 昇降機の新設需要は堅調
- ・ 量産効果に加えて、材料費が安定
- ・ 営業利益は大幅な増益

上海閘北嘉里不夜城(中国)



香港
台湾
韓国

- ・ 受注、売上は順調に拡大
- ・ 営業利益は香港と韓国で増益

ロッテプレミアムアウトレット金海(韓国)



売上高、営業利益とも前期並み

シンガポール

- ・ 工期の延伸により減収ながら増益を確保
- ・ コストダウンから営業利益率が改善

メディアコープ(シンガポール)



インド アセアン 地域

- ・ インドネシア、マレーシア等のアセアン地域では新設事業が順調に拡大し、増収増益
- ・ インドでは建設工事の遅れから出荷が延伸

IT パーク(インド)



北米・欧州は総じて低調

北米

- ・ 米国経済の回復から新設受注は順調に増加
- ・ 据付コストの上昇から採算が悪化

欧州

- ・ 欧州経済は徐々に回復
- ・ 英国、ドイツは損益が改善

605 ウェスト・42ストリート(アメリカ)



1-11. 連結決算 B/S

FUJITEC

(単位：百万円)

	2014/3	2013/3	増減額	備考
流動資産	111,271	80,736	+30,535	
現金及び預金	41,212	31,446	+9,765	日本・東アジアの増加
受取手形及び売掛金	42,116	31,039	+11,077	日本・東アジアの増加
棚卸資産	19,929	13,887	+6,042	東アジアの増加
その他	8,013	4,363	+3,649	
固定資産	42,993	41,907	+1,086	
有形固定資産	29,982	28,759	+1,222	設備投資 +1,867 減価償却 △2,056 為替ほか +1,411
無形固定資産	3,876	3,136	+739	
投資その他の資産	9,135	10,011	△875	
総資産	154,265	122,643	+31,621	
流動負債	54,348	39,953	+14,395	支払手形及び買掛金 +3,616 前受金 +5,573
固定負債	6,414	4,417	+1,997	長期借入金 +1,204
純資産	93,501	78,272	+15,229	利益剰余金 +5,886 少数株主持分 +2,539 為替換算調整勘定 +7,725 自己株式 △944
自己資本比率	54.8%	58.6%	-	
B P S	912.40円	768.64円	+143.76円	

営業キャッシュフローが拡大

(単位：百万円)

	2014/3	2013/3	増減額
現金及び現金同等物期首残高	15,519	9,718	+5,800
営業活動キャッシュフロー	9,294	7,913	+1,381
投資活動キャッシュフロー	△2,655	△232	△2,423
フリーキャッシュフロー	6,639	7,680	△1,041
財務活動キャッシュフロー	△3,823	△3,048	△774
現金及び現金同等物期末残高	20,903	15,519	+5,384

2

2015年3月期 業績見通し

2-1. 通期業績予想

増収ながら小幅な増益

2014年3月期

2015年3月期

	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	624	46	7.4%
東アジア	664	66	10.1%
北 米	142	△0	△0.2%
南アジア	130	18	13.7%
欧 州	6	0	0.7%
小 計	1,566	130	8.3%
調 整 額	△96	△2	-
合 計	1,470	128	8.8%

	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	640	48	7.5%
東アジア	770	67	8.7%
北 米	150	0	-
南アジア	150	18	12.0%
欧 州	8	0	-
小 計	1,718	133	7.7%
調 整 額	△118	△3	-
合 計	1,600	130	8.1%

平均為替レート: 14/3期 1米ドル96円

平均為替レート: 15/3期 1米ドル98円

アジアを中心に増収、利益は横ばい

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2015/3	2014/3	増減%	2015/3	2014/3	増減額
日 本	64,000	62,407	+2.6%	4,800	4,605	+195
東アジア	77,000	66,363	+16.0%	6,700	6,670	+30
北 米	15,000	14,165	+5.9%	0	△26	+26
南アジア	15,000	13,024	+15.2%	1,800	1,779	+21
欧 州	800	673	+18.9%	0	5	△5
小 計	171,800	156,634	+9.7%	13,300	13,033	+267
調 整 額	△11,800	△9,580	-	△300	△161	-
合 計	160,000	147,054	+8.8%	13,000	12,871	+129

平均為替レート：15/3期 1米ドル98円、14/3期 1米ドル96円

日本：増収増益基調を堅持

(単位：百万円)

	2015/3	2014/3	増減%
売上高	64,000	62,407	+2.6%
営業利益	4,800	4,605	+4.2%
営業利益率	7.5%	7.4%	+0.1P

平均為替レート：15/3期 1米ドル98円、14/3期 1米ドル96円

- ・ 新設市場は、引き続き堅調に推移する見通し
- ・ モダニゼーション市場は、駆け込み需要の反動あり
- ・ 建設現場での人員不足による工事の遅延が懸念材料

東アジア: 増収計画、利益率は低下

(単位: 百万円)

	2015/3	2014/3	増減%
売上高	77,000	66,363	+16.0%
営業利益	6,700	6,670	+0.4%
営業利益率	8.7%	10.1%	△1.4P

平均為替レート: 15/3期 1人民元16円、14/3期 1人民元16円

- ・ 16%の増収は前年を上回る計画
- ・ 中国の新設市場は10%の成長見込み
- ・ 価格競争激化により利益率が低下
- ・ 顧客の資金繰りも懸念材料

南アジア:新設事業拡大、利益率低下

(単位:百万円)

	2015/3	2014/3	増減%
売上高	15,000	13,024	+15.2%
営業利益	1,800	1,779	+1.2%
営業利益率	12.0%	13.7%	△1.7P

平均為替レート: 15/3期 1シンガポールドル79円、14/3期 1シンガポールドル77円

- ・ 15.2%の増収は前期を上回る計画
- ・ 新設事業拡大により、利益率が低下
- ・ インドはコストダウンに取り組む

北米・欧州：増収ながら、収支均衡

(単位：百万円)

北 米	2015/3	2014/3	増減%
売 上 高	15,000	14,165	+5.9%
営 業 利 益	0	△26	-
営 業 利 益 率	0.0%	-	-
欧 州	2015/3	2014/3	増減%
売 上 高	800	673	+18.9%
営 業 利 益	0	5	-
営 業 利 益 率	0.0%	0.7%	△0.7P

平均為替レート：15/3期 1米ドル98円、14/3期 1米ドル96円

- ・ 北米はアフターマーケット事業の拡大に注力

設備投資・減価償却費・研究開発費・配当

(単位：百万円)

	2015/3 計画	2014/3 実績	増減額
設備投資額	7,600	1,867	+5,733
国内	1,900	1,026	+874
海外	5,700	841	+4,859
減価償却費	2,500	2,237	+263
研究開発費	2,000	1,976	+24

(単位：円)

	2015/3 予定	2014/3 実績	増減額
配当金	24	22	+2
中間	12	9	+3
期末	12	13	△1

3

中期経営計画 進捗状況

中期経営計画“Grow Together! Yes, Fujitec Can”

経営方針

企業価値の持続的成長を実現するために、進出する全ての市場においてマーケット・シェアを拡大しグローバル市場でのプレゼンスを高める

行動ビジョン

- ・ グローバル市場において、フルラインプロデューサーとして商品供給力とコスト競争力を高める
- ・ 日本を含むアジア地域での生産再編を加速し、グローバルサプライチェーンの改革を実現する
- ・ 安全と品質を最優先に、顧客の信頼と期待に応える
- ・ グローバル人材の育成を強化する

3-2. 中期経営計画 業績目標

売上高1,750億円、営業利益150億円に修正

2016年3月期（修正前）

2016年3月期（修正後）

	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	580	45	7.8%
東アジア	800	60	7.5%
北 米	170	5	2.9%
南アジア	160	20	12.5%
欧 州	8	0	-
小 計	1,718	130	7.6%
調 整 額	△118	△2	-
合 計	1,600	128	8.0%



	売上高 (億円)	営業利益 (億円、利益率)	
日 本	650	50	7.7%
東アジア	880	82	9.3%
北 米	160	1	0.6%
南アジア	170	20	11.8%
欧 州	9	0	-
小 計	1,869	153	8.2%
調 整 額	△119	△3	-
合 計	1,750	150	8.6%

平均為替レート: 16/3期 1米ドル90円

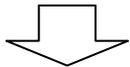
平均為替レート: 16/3期 1米ドル98円

中国：生産・販売機能を強化

生産面

華昇フジテック

- ① 研究塔(151m)完成
- ② 生産スペースの拡充



研究・開発・生産機能を強化



生産面

上海調達センター



要素機器生産を集約し
コスト競争力強化

販売面

- ① 販売代理店の拡充
- ② 商品ラインアップの拡充

南西部
新物流拠点を設置

インド・シンガポール・香港：販売力を強化

インド

①顧客ニーズに合わせた商品供給
⇒「ERITO」を販売

②販売網の拡大
⇒販売拠点の拡大に加え、
南アジア各国に向けた輸出にも注力

「ERITO」



シンガポール、香港など

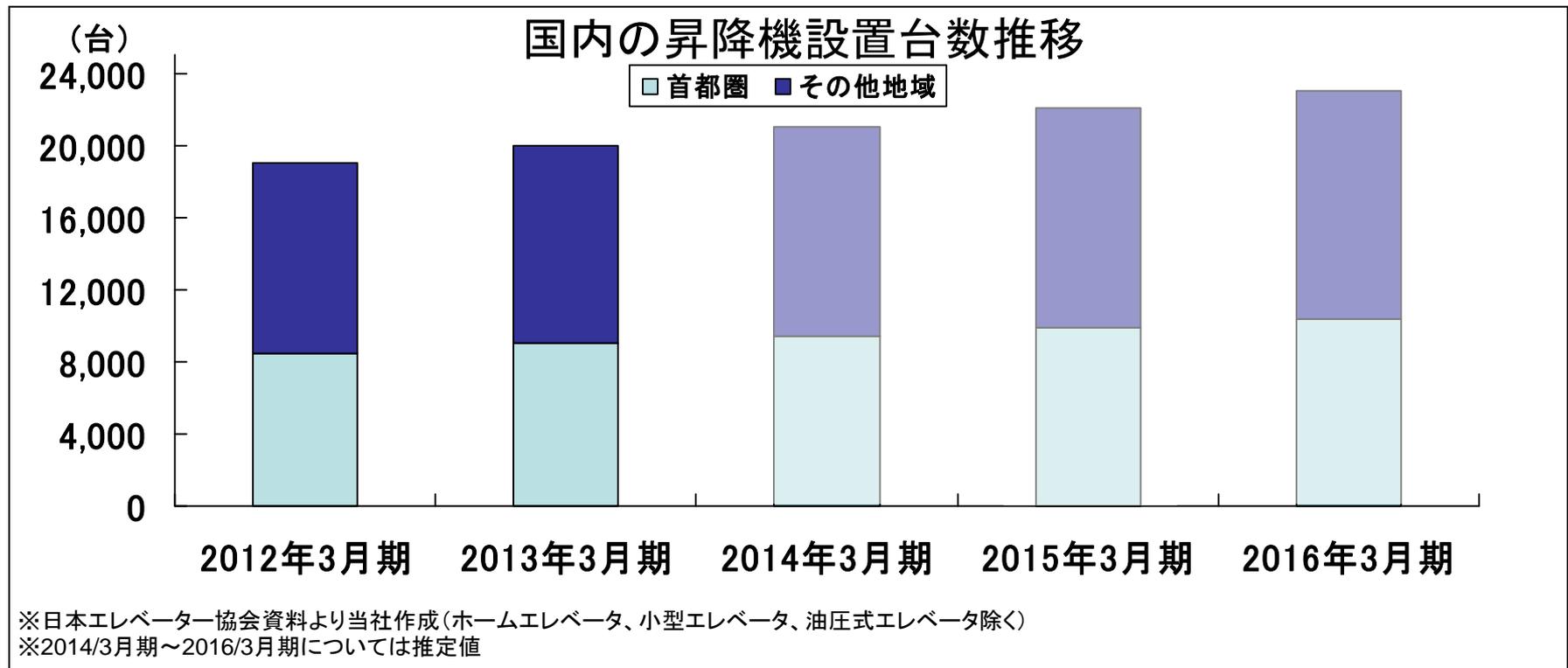
■モダニゼーション事業の強化
⇒過去納入した製品の更新時期。モダニの取り込みに注力
⇒モダニ商品のラインアップ拡充

日本：首都圏の受注対応

- ・首都圏で大規模な再開発計画が進行
- ・オリンピック関連による開発



- ・首都圏のフィールド人材を増員
- ・高品質な商品を安定供給



參考資料

社名	フジテック株式会社
設立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場)
本社	滋賀県彦根市 ビッグウィング
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資本金	125億33百万円（発行済株式数93,767,317株）
役員	代表取締役社長 内山高一 取締役：7名（うち社外3名） 監査役：常勤2名、社外2名
従業員数	連結 8,539名（個別 2,714名）
関係会社	32社（内、連結子会社18社） （米州、東アジア、南アジア、欧州・中近東）

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2014年5月27日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2014年5月

フジテック株式会社

2014年3月期決算説明会資料

